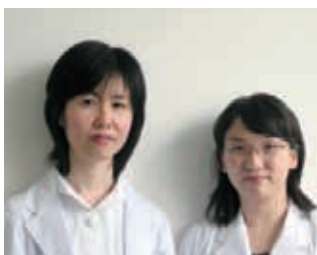


## 網膜硝子体疾患を中心に 最新の治療を導入しています

当科は6名の職員(今泉寛子、奥芝詩子、宮本寛知、荻野哲男、木下貴正、佐藤 唯)と嘱託医4名(竹田明、宮部靖子、永田きよえ、渡邊真弓)で診療を行っています。全員眼科専門医です。白内障や外眼部疾患など眼科全般に対応していますが、当科の専門領域である網膜硝子体疾患を中心に、新しい治療や技術を積極的に導入しています。加齢黄斑変性の治療と硝子体手術での低侵襲手術がその代表です。

### 加齢黄斑変性の治療 光線力学療法と抗VEGF療法

2004年の光線力学療法、2009年の抗VEGF(血管内皮増殖因子)療法(ルセンティス、マクゼン)の導入により、従来は治療困難だった中心窩下に脈絡膜新生血管がある症例への治療が可能になりました。光線力学療法はこの6年間に1,000例以上、抗VEGF療法も500件近くとなり、全国的にも多数例の治療を行なっている施設となっています。



#### 眼科医師

上左より:今泉・奥芝・宮本  
荻野・木下医師

下左より:永田・渡邊医師

眼 科  
部 長  
今泉 寛子



### 小切開硝子体手術

硝子体手術では25ゲージの器具を用いた小切開無縫合手術を2005年から開始しました。黄斑円孔、黄斑上膜、黄斑浮腫などの黄斑疾患のほか、現在では増殖糖尿病網膜症や網膜剥離などの複雑な疾患も含めてほとんどの症例を25ゲージ手術で実施しています。2009年の硝子体手術件数は772件でした。症例によっては広角観察系(BIOM)も使い、手術時間の短縮、術後の痛みの軽減、早期の視力回復を図り、患者さんに優しい手術を目指しています。



### 入院はクリティカルパス

入院される方はほとんどが手術目的です。2009年の手術件数は2,367件、硝子体手術以外では、白内障が1,444件、緑内障が64件、その他(外眼部など)87件でした。全例でクリティカルパスを用い、ていねいな説明とともに患者さんにわかりやすい治療を心がけています。

### これから

今後も新しい治療や手術手技を積極的に取り入れ、治療成績のさらなる向上に努めたいと思います。地域の先生方とも緊密に連携し、きめ細かな診療を行いたいと思いますのでどうぞよろしくお願いたします。